

令和4年度第1回匝瑳市子ども読書活動推進計画策定委員会議
会 議 録

- 日 時 令和4年6月27日（月）15：30～16：30
 - 会 場 ふれあいセンター第1会議室
 - 出席委員 石橋春雄委員（図書館協議会代表）、小澤祐子委員（市内小学校代表）、加藤雅博委員（市内中学校代表）、大野裕子委員（図書館ボランティア代表）、鵜澤和子委員（家庭教育指導員）、高橋恵美委員、（市内保育所代表）、鏑木輝美委員（市内幼稚園代表）、矢澤敏和委員（学校教育課長）、畔蒜稔行委員（生涯学習課長）、川口義夫委員（図書館長）

以上10名
 - 教育委員会 二村教育長
事務局 熱田室長、越川主査
 - 1 開 会 熱田室長が進行
 - 2 挨拶 二村教育長
 - 3 自己紹介
 - 4 委員長、副委員長の選出
立候補がないため、事務局から委員長に石橋春雄委員を、副委員長に加藤雅博委員を提案。
（全員の拍手により委員長、副委員長が決定）
 - 5 協 事 石橋委員長が議長となり進行
 - （1）匝瑳市子ども読書活動推進計画（第三次）について
- 議長 事務局の説明を求める。
事務局 匝瑳市子ども読書活動推進計画（第三次）の前半の説明をする。
- 議長 事務局より匝瑳市子ども読書活動推進計画（第三次）の前半についての提案があったので、質問がありましたら発言をお願いしたい。

【匝瑳市子ども読書活動推進計画（第三次）前半についての質疑】

- 委員A 今回初めて参加するが、努力していることが伝わってくる。一員として協力できればと感じている。
- 委員B 学校では、毎朝の読書活動、読み聞かせ等、日常的に本に触れる機会が多い。中学校では、休み時間に図書館に本を借りたり、読んだりする意欲的な生徒がいる一方、放課後は部活、家ではゲーム等、全く本に触れない生徒もいる両極端の状況がある。毎日、本に触れる機会があるので、働きかけによっては、本に親しむきっかけになるチャンスがあると感じている。
最近の読書は、スマホやタブレット端末を利用したデジタルなものが増えている。紙媒体の良さは、全体のイメージを掴みながら読みすすめていくことができるし、簡単に前に読んだところに戻ることもできる。デジタルの良さは、定額の読み放題であったり、自身の興味のあるものだけを読んだりすることができる。デジタルも便利ではあるが、個人的には、紙媒体の良さに小さいころから触れ、本に親しむことの素地を、第三次の策定計画で育てていければと思う。
- 委員C 要望も兼ねて3点。1点目は「読書は好きですか」の問いに対して、令和元年の調査結果である。喫緊のデータでなければ、説得力がない。令和3年7月のアンケート調査結果で再考すべき。このデータに関わらず、去年の調査結果を見せてもらいたい。使えるものと使えないものを取捨選択して、できるだけ新しいデータを使う必要がある。
2点目は、これまでの本市の読書活動の課題を浮き彫りにして、それに向けて第三次策定計画でどう取り組んでいくことが重要である。
3点目は、学校図書館法の改正、「館」が抜けている。
- 事務局 ご指摘いただいた課題について、何が本市の課題かを明確にしてお示しする。
読書の好きな子どもの割合は、喫緊のデータをお示しする。
- 委員C 委員のみなさん方にも、去年とったアンケート調査結果を示して欲しい。それによって委員のみなさんからの新たな課題が明確となる。足りなかったらば、必要な調査について再検討できる。まだ策定までには時間がある。地域の実態を委員のみなさんが把握しないで、机上

でやっていたのでは意味をなさない。匝瑳市のために、何をどうしたらいいのか、アンケート調査を再構築する必要がある。

事務局 持ち帰り再検討する。

委員B アンケート調査の件は、前回の匝瑳市子ども読書活動推進計画（第二次）の際は、平成28年の7月にアンケート調査を行っている。その結果は、資料編に記載され、市内全小・中学校用、幼・保育園、子どもクラブ、放課後子供教室を対象としている。質問項目としては、朝読書、読み聞かせ等の学校における読書活動の現状、保護者への啓発、情報提供、保育所、幼稚園における読書活動の現状についてである。平成28年度と令和3年度のアンケート調査が比較して見られるとありがたい。

事務局 アンケート調査の結果を比較してお示しする。

議長 コロナ禍の中で、活字が見直された。アンケートの調査結果を比較ができるのであれば楽しみである。
話題を変えるが、コロナ禍の中で現場、特に図書館の利用者数の状況について伺いたい。

委員D 図書館利用者数は把握ができていないが、読み聞かせの活動そのものがコロナ禍の影響で行えていない。そもそも図書館に来館される人数自体が減っていると考えられる。

委員E 利用者数、来館数ともに具体的な数字は現段階で申し上げられないが、最近では学校の社会科見学が増えてきており、毎月実施している。来館者数は減っているだろうが、学校から配本サービスのリクエスト数は多く、依頼された本を学校に届ける機会が増えている。

委員F 図書館を利用したいと考えている。7月5日（火）にも、のさか図書館の方に、ボランティアの保護者、子ども達と一緒に本に親しむ機会を予定している。

委員G 総合支所で、母親が子連れで図書館を利用していた。小さいお子さんであったが本を大事そうに抱え、家で読むのだろうなという光景

を見た。子どもが小さい時から、家庭で本を読む環境があることはとても大切である。今までの取組を見ると、ブックスタートから始まり、幼稚園・保育所等での読み聞かせ、小中学校での朝の読書活動と発達段階に応じていた。さらに読書の興味関心を高め、環境を整えていくとよいと感じた。

委員H ブックスタートという話があったが、健康管理課の4か月検診の際に、ボランティアでやっていた保健推進員のブックスタートを、現在は保健師が行っている。1歳半児健診、3歳児健診があるので、子ども達がどのように本に携わっていくか経過を母親に聞いてみるよう、健康管理課に相談したい。

委員I 昼休みに図書館で本を自由に借りられる状況になっている。ただ、本を借りるのは1～3年生。「雨だから図書室にいこう。」「このシリーズはあるよ」と宣伝をしたり、あの手この手を使って声かけをしたりしているが、昼休みは外で遊びたいという高学年が多い。学力テストからも読み取りが苦手という結果は毎年出ており、国語だけではなく、他教科にも影響している。
現在、学級担任が配本サービスを積極的に利用している。野菜を育てる、生物を育てる、全学年で配本サービスを年に3回は利用している。高学年の本に対する興味を高めるために漫画ならどうなのか、悩んでいる。漫画も内容によっては、知識を得られるが、高学年が本に親しむ環境づくりに苦慮している。

議長 続いて、事務局より匝瑳市子ども読書活動推進計画（第三次）の今後のスケジュールについて説明をお願いしたい。

事務局 今後のスケジュールを説明

議長 事務局より匝瑳市子ども読書活動推進計画（第三次）の今後のスケジュールの提案があったので、質問がありましたら発言をお願いしたい。

委員J 作業部会で検討する要望事項を3つ。
1点目は、コロナ禍で読み聞かせは中止になった際に、読み聞かせができない場合の代替案の検討を。

2点目は学校評価をした時に、学校職員はいろいろな取組をして読書を頑張っていると評価をするが、保護者は子どもが本を読んでいないと評価をする。学校と家庭の意識のズレがある。学校だけで取り組むことなのか、家庭でも読む取り組みはないのか、その対策を模索できるとよい。

3点目はスマホやタブレットでデジタルな活字がある。それを読書としていいのか、それとも従来通りの紙での読書がいいのか検討してほしい。

事務局 部会で検討する。

議長 問題提起として、図書館の在り方について話をしたい。行政は市の図書館、学校は学校図書館、この線引きはどうか。のさか図書館ができたが、その前までは蔵書もない図書館だった。その当時は、各学校の図書館に予算をつけて充実させた。のさか図書館は合併後にできたが、のさか図書館の子ども達の利用が伸びない。どちらの図書館を充実させればよいのだろうか。

委員C 子ども読書活動推進計画なので、子どもが本に親しんで貰うことが一番のねらい。子どもにとって身近なものは学校図書館。そこで大事なことは市の図書館との連携である。学校では、朝読書をするために、学校図書館から学級に分配しているが、当然冊数は足りない。子どものニーズに応えるためには、市の図書館からの配本サービスでカバーができる。その連携を深めていければ、市の図書館も十分活用できる。配本サービスは偏りがある。積極的に活用する学校と、今一步足りない学校。図書館としてのピーアールが足りない、学校としても読書活動にさらなる力を入れてもらえるようにしていくべき。子どものニーズを的確にとらえる必要がある。

ふと出会った一冊がきっかけになって本が好きになる経験がある。いろいろやり方がある。よい本を積極的に紹介する。各学校で創意工夫のある取組をする。読書活動における「のびしろ」はまだまだある。

事務局 子ども達のニーズに応えられるような取組も検討していく。